

# バス停からの 小さな旅



文化の森スタッフが、あい愛バスを使った小さな旅を紹介します。

## 35 「正眼短期大学(さとやま線)」から 伊藤萬蔵の寺標を訪ねる旅

伊深町にある正眼寺の裏参道入り口、県道63号線(美濃加茂和良線)沿いにある標柱をご存じですか。明治42(1909)年に造立されたその標柱の右側面には、「名古屋市西区塩町 伊藤萬蔵」の文字が刻まれています。

伊藤萬蔵(1833~1927年)は、幕末から明治にかけて名古屋城下を舞台に活躍した実業家で、尾張国中島郡平島村(現・一宮市丹陽町平島)の貧しい農家に生まれ、若くからその商才を発揮し米の取り引きによって財を成しました。また、並外れた篤志家でもあり、その深い信仰心から富の多くを尾張を中心とした全国の神社への寄進に費やしました。明治13年から没年までの47年間にわたり奉納した鳥居・常夜灯などの石造物は、千体以上ともいわれ、ほかに、市内では太田本町、古井町、森山町の3基が確認されています。江戸から昭和にかけて激動の時代を駆け抜けた彼は、生涯を通してその実行力で自らの信心を貫き通しました。道端にある何気ない石造物もじっくり見てみると、造った人の生き様が垣間見えてくるでしょう。

文化の森 ☎ 28・1110



▲標柱に刻まれた伊藤萬蔵の文字



今回乗車したバス

行き・帰り…さとやま線  
右回り 5便

13時13分 美濃太田駅北口  
13時32分 正眼短期大学  
下車後、正眼短期大学  
や正眼寺へと続く道の  
左手に見える寺標を観  
察し、正眼寺で参拝。  
その後、反対側の参道  
を下ってバス停へ。  
13時58分 正眼寺前  
14時19分 美濃太田駅北口



▲正眼寺の参道脇に立つ寺標